



希望の未来へ！あなたと市政のかけ橋に

すずらんジャーナル

船橋市議会議員

はしもと 和子

2016年 第46号

市民相談はお気軽に

公明党控室 047-436-3032

発行 橋本 和子



船橋小学校
の雨水利用
ろ過装置を
設置し、校
庭の散水に
利用

雨水利用を推進しています。

「市町村計画」を定め、行政・開発事業者・市民等が雨水利用を意識することにより、雨水の下水道や河川等への流出の抑制が期待されます。また、災害時の水源を確保することもできますし、水道料金の削減にもつながります。「市町村計画」を定め、市民に公表することを要望しました。



オガールプロジェクト（紫波町）を視察

農村と都市が共生し、すべての人が希望を持ち、安心して暮らせるまち、そして、人にも地球にも優しいまちを目指した、公民連携のまちです。

日本一の木造建築の町役場（トイレの水に雨水を利用）・図書館・子育て応援センター・眼科・歯科・カフェや居酒屋もあり、宿泊施設もあります。



子どもの貧困対策について

家計の事情で、十分に食事がとれない子どもや一人で食事をする孤食の子どもなどを支援する子ども食堂が全国各地で広がり、本市でも、数か所で行われています。



社会全体で、子どもの貧困に気づく体制づくりが必要



包装に問題があったり、規格外だったり、賞味期限が近い食品等を、企業や個人から寄付を受け取り、生活困窮者に支援をしているフードバンクと連携し、子ども食堂を開設しているケースもあります。民間団体やNPOなどに対し、経費の負担が出来ないものか伺いました。

子ども達をしっかりと支えていく

子ども食堂を含め、どのような取り組みが必要か、他市の事例を視野に入れながら、必要な支援、実施体制などを検討する。



「保健と福祉の総合相談窓口」『さーくる』

047-495-7111

月～金曜日(開庁日のみ)9:00～17:00

経済的な心配がある。公的・民間の福祉サービスを利用したいけど、どこに相談したらいいの？
困ったことが色々あって何から先に手をつけたら？そんな時は迷わず「さ〜くる」に相談してください。

まちづくりの観点から、学区の見直しを！

専門に考えるプロジェクトチームを設置し、学区の見直しを含め、今後の学校の在り方を検討する対策を講じるべきと考えます。

A小学校

数年前から、新入生の数が減少し、周りの学区の緩和を行いました。しかし、思ったより、増えていません。逆に周りの小学校では、住宅が増え、児童数が増加。今回見直しをし、緩和ではなく、基本学区に変えることが検討されています。

B小学校

数年前、学区内の予定新入生は60数名でしたが、ふたを開けてみたら、半数以下でした。近隣の小学校も空きがあるため、距離的に近ければ、近隣校でも受け入れ可能となっています。B小学校では、学校の特色を出して、新入生が入ってくるよう努力をしています。

C小学校とD中学校

小中連携教育を行っていますが、卒業生の半分近くが、D中学校ではなく、近隣のE中学校に行っています。せっかく小中連携教育で、中一ギャップをなくす努力をしているのに、もったいないと思います。

F小学校やG小学校など、人口が増えている地域では、教室が不足するなど、市内を見渡すと、かなりの差が生じています。

このような現状をふまえて、まちづくりの観点から、今後どうすべきかまちづくりを専門として研究されている立場から、鎌田教育委員長に伺いました。

鎌田教育委員長の見解

地域によって都市構造・産業構造・コミュニティの成り立ち、人口構成等が異なります。これらを踏まえたうえで、船橋市内全体の学校の配置との調和を図りながら、地域ごとに中長期的な計画を作っていく必要があると思います。長年培われた地域の人々の学校への愛着や想いを尊重しながら、将来的な「地域像」を描いていくことが必要と考えます。

平成21度～23年度に、H小中学校で、小中一貫教育の研究が行われました。当時は、生徒数も少なく、特区を申請して、全市内から、小中一貫教育を希望する児童生徒を募集したいという意見がありましたが、その後大型マンションが建設され、児童生徒数が急激に増大し、せっかくの小中一貫教育の良さを全市に広めることが出来なくなりました。このような事を考えても、教育委員会のみで、学区の見直しを含め、これからの学校の在り方を考えるのは、無理があります。まちづくりの関係部署と連携をとることを、要望しました。

H.29年度より、がん教育が始まります。

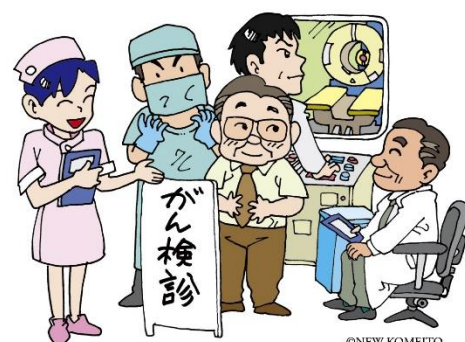
日本人の死亡原因第一位で、2人に1人がかかるとされる、がんを正しく知り、命の大切さへの理解を深めるための「がん教育」について、今年の4月に文科省が作成した教材をもとに、がん教育のモデル校で「がん教育」が実施され、活用された教材を改訂し、来年度、全国実施されることになりました。

がん教育の目的

「がんを正しく知る」
「健康と命の大切さに気づかせる」

車の運転に例えると生活習慣の改善は安全運転、がん検診は、シートベルトに当たり、いざという時に命を守ってくれるのが、がん検診

がん教育を学んだ子が、保護者に、「がん検診」を勧める



はしもと 和子 090-5574-9079

ホームページ hashimoto-kazuko.jp

市政に関するご意見・ご要望をお寄せください。

S.35年 長野県軽井沢町生まれ 小諸商業高等学校卒業

八十二銀行入行 S.57年より船橋市在住 H.27年より保護司

